

ジャウイ文書研究会ニューズレター
第10号 2003年6月2日

Jawi Study Group Newsletter No.10

2 June 2003

発行者：ジャウイ文書研究会事務局

<http://homepage3.nifty.com/tao/jawi-study/>

〒890-8580 鹿児島市郡元 1-21-24

電話 099-285-7393 FAX 099-285-6197

鹿児島大学多島圏研究センター 青山 亨研究室

E-mail toru@cpi.kagoshima-u.ac.jp

目次

| | | |
|------|--|----|
| I. | 研究会予定 | 1 |
| II. | 事務局からのお知らせ | 1 |
| III. | インドネシア写本学会 (Masyarakat Pernaskahan Nusantara: MANASSA) 紹介 菅原 由美 | 2 |
| IV. | MANASSA 第7回国際シンポジウムのお知らせ | 4 |
| V. | MANASSA 国際シンポジウム報告集所収論文 | 5 |
| VI. | シンポジウム記録 東南アジア史学会・自由企画シンポジウム「ジャウイ文書研究の可能性—壁としての ジャウイ、橋としてのジャウイー」 | 10 |
| VII. | 研究会記録 第17回研究会記録 (2003年4月19日) | 13 |

I. 研究会予定

第18回研究会の予定：2003年6月2日(月) 9:30-12:30。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所セミナー室(301)。講読テキストは Address of the Penang Mohammedans to the Queen on the Occasion of the Jubilee of Her Reign, June 1887. JSBRAS (1886) No.18, pp. 366-368。

また、この機会に東京外国語大学客員教授である Edi S. Ekadjati 先生(インドネシア・パジャジャラン大学教授)との意見交換を予定しています。

II. 事務局からのお知らせ

ニューズレターの訂正

4月19日に発行したジャウイ文書研究会ニューズレターに事務局の手落ちで誤って「第11号」と表示されておりました。お詫びとともに「第9号」に訂正させていただきます。すでに受け取られた方はお手数ですがご自身で「第9号」と訂正していただくようお願い申し上げます。6月2日発行のこの号が第10号、次号が第11号となります。

メーリングリストについて

ジャウイ文書研究会ニューズレター第 9 号に掲載しました「ジャウイ文書研究会のメーリングリストとウェブサイトの立ち上げのお知らせ」において、「メーリングリストへの参加は一般に開放されています。」と書かれていますが、4 月 19 日の研究会の討議の結果、メーリングリストは一般に開放せず、「ジャウイ文書研究会の会員のみがメーリングリストに参加できる。」とすることになりました。ジャウイ文書研究会の連絡手段という性格を明確にするためです。あわせて本号の「研究会報告」をご参照ください。また、事務局で作成したメーリングリスト利用内規案をメーリングリストで回覧し、会員の検討をお願いしているところです。

III. インドネシア写本学会 (Masyarakat Pernaskahan Nusantara : MANASSA) 紹介

菅原 由美

オランダ時代の遺産である文献学 (Philology) を継承した現在のインドネシアの文献学者達はオランダ、レイデン大学で教育を受け、帰国後各地の大学の文学部で教鞭を取っているが、文献学を志望する学生は少なく、常に後継者不足に悩んでいる。こうした研究状況を背景に、1996 年 6 月にジャカルタで開催された写本伝統に関する国際シンポジウムにおいて、インドネシアの文献学者の研究活動を補助する組織を設立する提議がなされた。その結果、インドネシア写本学会 MANASSA が設立された。会員は、インドネシア人研究者のみに限らず、インドネシアの写本に関心を持っていれば、誰でも入会可能とされた。設立時、事務局長にはインドネシア大学文学部のイクラム教授 (Achadiati Ikram) が就任し、インドネシア大学文学部に事務局本部が置かれた。その後、インドネシア各地の大学に支部が設置されたが、近年の地方分権化以降、本部一支部という関係は崩れ、各地域で個別に活動を行う傾向が顕著になった。支部としては解散し、個人的に研究活動を行っているケースもある。また、ジャカルタ本部は、国内・海外の諸団体との資金援助を含めた協力体制をより円滑におこなうために、あらたにインドネシア写本協会 (Yayasan Naskah Nusantara 通称 YANASSA) を立ち上げ、インドネシア大学教官住宅地区に事務所を構えた。そこで、出版物やグッズの販売、Newsletter の発行、シンポジウム準備などの MANASSA 関連の事務をおこなっている。

MANASSA/YANASSA の目的は、1. インドネシアの写本に関するセミナー、シンポジウム、研究会、研修会を開くこと、2. 土着の文化に対する意識を高めてもらうために、各地域で、地方政府や NGO などに情報を提供すること、3. インドネシアの写本に関する知識向上を目的とした様々な活動を、地域、国内、国際規模で推進すること、4. インドネシアの写本に関する研究成果を出版することである。また、YANASSA は現在、写本関連の研究をおこなう大学院生に対し、海外の財団 (トヨタやフォード) などから研究助成金を受けるための窓口となっている。

国際シンポジウムは、96 年以降、ほぼ毎年インドネシア各地で開催されている。98 年、99 年はジャカルタ、2000 年はリアウ、2001 年はパダン、2002 年はバンドゥンでシンポジウムが開かれ、2003 年は 7 月 28-30 日にバリでの開催が予定されている (後述)。シンポジウム報告集は開催地各地で出版されており、ジャカルタの YANASSA 事務局で入手可能である (下記文献参照)。(東京外国語大学 21 世紀 COE プログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」でもこれらの資料を購入した。)

その他に、MANASSA の中心メンバーは、これまでに、フォード財団、トヨタ財団、フランス極東学院 (EFEO) の助成を受け、また海外の研究者の協力によって、写本カタログ集の出版を続けてきている。ジャウイ研究会によって『上智アジア学』20号でインドネシア写本基本カタログ・シリーズが紹介されたが、本シリーズ第四巻インドネシア大学文学部所蔵写本カタログの編者 Titik Pudjiastuti 氏はジャカルタ本部、第五巻西ジャワの写本コレクションのカタログ編者 Edi S.Ekadjati 氏はバンドゥン支部の中心メンバーである。予定では、同じくフォード財団によって助成され、マイクロフィルムとカタログ作成が進められた南スラウェシのカタログが第6巻として出版されることになっているが、本部一支部 MANASSA 内の意見調整が難航したことと、編者がジャカルタの国立文書館の館長に就任していたことにより (今年3月に辞任)、計画は滞っていた。しかし、マカッサルのハサヌディン大学の研究者は出版を強く希望しており、再び出版の兆しが見え始めている。南スラウェシの写本に見られるアラビア文字文書の研究の今後の進展が期待される。なお、写本のマイクロフィルムはマカッサルにて閲覧可能であり、閲覧用のカタログも当地に用意されている。

南スラウェシ写本のカタログ出版が滞っていた間、基本カタログ集とは別に、スラウェシ島南部ブトン島に保管されている写本について、ジャカルタの MANASSA のメンバーがカタログを作成し、出版をおこなった。このカタログについても、『上智アジア学』同号で紹介した。

現在、ジャカルタの MANASSA がカタログ及びマイクロ作成を計画しているのが、パレンバンの写本である。彼らは現在までに出版されているカタログがジャワ島の写本に偏っていることを危惧し、他地域の写本について調査を進めることを希望している。彼らは、全国から集まるインドネシア大学の学生から、故郷に眠っている写本の情報提供を受け、下見調査に出るという順序で、調査を行っている。パレンバンについても、同様に学生からの情報提供を受け、現地へ向かった。スマトラ島の写本は多くは個人によって所有されており、今後も博物館等に提供される可能性が少ないため、マイクロ及びカタログ作成を早急に進める必要性を主張している。パレンバン出の写本は世界的に保管数が少ないが、当地では宗教役人の家系及びアラブ人子孫が自宅に多くの写本を保管しており、文学以外にも、メッカとの書簡、婚姻登記簿など多様な手書き文書が残されていた。他に、19世紀末のパレンバンの出版物も目にした。使用されている文字・言語はアラビア語、マレー語 (ジャウイ) が多数である。ジャカルタの MANASSA メンバー及びパレンバンの研究者による共同調査が計画されている。

パダンでは、アンダラス大学文学部の講師達 (MANASSA メンバー) が独自に西スマトラ各地のスラウ (イスラーム寄宿塾) に保管されている写本の調査を進めている。彼らによれば、スラウは外部の人間が立ち入ることを拒むが、貴重な写本が数多く存在するため、彼らは地域研究、文化人類学の研究者とともに各地のスラウを回り、写本及び口承伝統、建築物のデータを収集している。

上記以外の地域における MANASSA メンバーの活動については、今回、情報を入手することができなかった。MANASSA 内でも彼らは互いの活動状況をあまり把握していない。海外・国内の文献学者が集まり、年一回開かれるシンポジウムが、唯一の接点となりつつある。

MANASSA で販売されている MANASSA 関連出版物リスト (上智アジア学で紹介されたカタログを除く) [全て、東京外国語大学で近日閲覧可能]

Mu'jizah & Maria IndraRukmi. *Penelusuran Penyalinan Naskah-naskah Riau Abad 19: Sebuah Kajian*

- Kodikologi*. Jakarta: Program Penggalakan Kajian Sumber-Sumber Tertulis Nusantara, Fakultas Sastra Universitas Indonesia, 1998.
- Suryadi. *Naskah Tradisi Basimalin: Pengantar Teks dan Transliterasi*. Jakarta: Program Penggalakan Kajian Sumber-Sumber Tertulis Nusantara, Fakultas Sastra Universitas Indonesia, 1998.
- Fachruddin Ambo Enre. *Ritumpanna Welenrennge: Sebuah Episode Sastra Bugis Klasik Galigo*. Jakarta: Yayasan Obor Indonesia, Ecole francaise d'Extreme-Orient, Fakultas Sastra Universitas Indonesia, 1999.
- Nurhayati Rahman & Sri Sukesri Adiwimarta eds. *Antologi Sastra Daerah Nusantara: Cerita Rakyat Suara Rakyat*. Jakarta: Yayasan Obor, Masyarakat Pernaskahan Nusantara, 1999.
- Uli Kozok. *Warisan Leluhur: Sastra Lama dan Aksara Batak*. Jakarta: KPG (Kepustakaan Populer Gramedia), Ecole francaise d'Extreme-Orient, 1999.

[シンポジウム報告集]

- Tradisi Tulis Nusantara: Kumpulan Makalah Simposium Tradisi Tulis Indonesia, 4-6 Juni 1996*. Jakarta: Masyarakat Pernaskahan Nusantara, 1997.
- Naskah sebagai Sumber Pengetahuan Budaya: Kumpulan Makalah Simposium International Pernaskahan Nusantara II 1998*. Jakarta: Masyarakat Pernaskahan Nusantara, 2000.
- Tradisi Tulis Nusantara Menjelang Milenium III: Kumpulan Makalah Simposium International Pernaskahan Nusantara III, 12-13 Oktober 1999*. Jakarta: Masyarakat Pernaskahan Nusantara, 2000.
- Naskah Nusantara Dari Sudut Pandang Kebudayaan Nusantara: Kumpulan Makalah Simposium International Masyarakat Pernaskahan Nusantara (Manassa) V, Fakultas Sastra Universitas Andalas, di Padang, Sumatra Barat 28-31 Juli 2001*. Padang: Manassa, 2001.
- Naskah sebagai Sumber Kebudayaan Nusantara Simposium International Pernaskahan Nusantara VI, 12-14 Agustus 2002*. 2002. Bandung: Manassa Cabang Bandung (Jawa Barat), 2002.

YANASSA 事務局の住所

Kompleks Dosen UI No.113, Cidendu, Ciputat 15419, INDONESIA

Tel/Fax 62-(0)21-74707649, E-mail: yanassa@uninet.net.id

IV. インドネシア写本学会第七回国際シンポジウムのお知らせ

(Simposium Internatianal Pernaskahan Nusantara VII)

テーマ: Nilai Kebenaran, Kebajikan, dan Keindahan dalam Naskah

Nusantara dan Fungsinya Bagi Kemanusiaan

場所: 開会式 バリ・デンパサール ウダヤナ大学講堂

(Universitas Udayana, Jl. Jenderal Sudirman, Denpasar)

シンポジウム会場 同じくデンパサールの Balai Penataran Guru (Yangbatu, Denpasar)

発表者募集:

1. シンポジウムのテーマに即した内容の発表であること

2. 応募者は英語とインドネシア語で約 200 語の要約を提出すること
3. 要約は 2003 年 5 月 31 日まで大会委員に送付すること
4. 選出結果通知のために、E メール、ファックス、電話番号を記入すること

大会委員会住所：

Jurusan Sastra Daerah, Program Pasca Sarjana S2/S3 Kajian Budaya,
Universitas Udayana, Fakultas Sastra, Manassa Cabang Bali.
Jl. Nias No.13 Denpasar- Bali, 80114 Indonesia
Tel/fax: 0361-246653 , 0361-224121m e-mail: manassabali@yahoo.com

参加費：(海外から)

2003 年 5 月 31 日までの申し込み \$100
2003 年 6 月 1 日以後 \$150

振込先：

Bank Mandiri Cabang Denpasar Udayana,
Jl. Udayana No. 11 Denpasar - Bali - Indonesia
口座番号 145-0003080427 a.n. Dra.Ni Made Suarningsih
大会時再登録を行うので、費用送金の証明を持参する。

V. MANASSA 国際シンポジウム報告集所収論文

資料作成 菅原由美

Tradisi Tulis Nusantara: Kumpulan Makalah Simposium Tradisi Tulis Indonesia 4-6 Juni 1996. Jakarta: MANASSA, 1997.

1996 年シンポジウム報告集所収論文

- Naskah dan Pengkajiannya: Tipology Pengguna/ Edi Sedyawati. 1-6.
- Naskah Lama dan Relevansinya dengan Masa Kini: Satu Tinjauan dari Sisi Pragmatis/ Siti Chamamah Soeratno. 7-33.
- Khasanah Naskah Nusantara/ Tuti Munawar, Nindya Neograha. 34-59.
- Hubungan Sejarah dan Filologi: Pandangan Hoesein Djajadiningrat/ Muhammad Luthfi. pp.60-80.
- Raja Ali Haji: Sebuah Ziarah/ Al Azhar. 1-97.
- Panji Modern dalam Pengembaraan Sastra: R.Ng. Poerbatjaraka dan karyanya/ I. Kuntara Wiryamartana. 98-124.
- Sri Wulan Rujjati Mulyadi dan Obesinya pada Naskah Melayu/ Dewaki Kramadibrata, Mu'jizah. 125-142.
- Permasalahan di Sekitar Pernaskahan Indonesia-Malaysia: Masalah Pengajaran/ Abdul Rahman Kaeh. 143-156.
- Penyelidikan Manuskript Melayu di Malaysia Masa Kini/ Wan Ali bin Wan Mamat. 157-166.

- Pada Tembok Keraton Ada Pintu: Unsur Santri dalam Dunia Kepujanggaan “Klasik” di Keraton Surakarta/ Nancy K. Florida. 167-190.
- Sources for the Study of Traditional Malay Literature/ E. Ulrich Kratz. 191-210.
- The Codicology Course in Leiden/ Willem van der Molen. 211-225.
- Revisiting Riau with Knowledge: Teaching Texts and Concepts/ Virginia Matheson Hooker. 226-248.

Naskah sebagai Sumber Pengetahuan Budaya : Kumpulan Makalah Simposium International Pernaskahan Nusantara II 1998. Jakarta: MANASSA, 2000

1998年シンポジウム報告集所収論文

- Data Arsitektur dalam Karya Sastra Jawa Kuna/ Agus Aris Munandar. 1-18.
- Salawat dan Salawat: Bacaan Beramanat di dalam Ibadat dan Hajatan Adat/ Amir Rochkyatmo. 19-34.
- Pernaskahan Nasional untuk Pembangunan / Astuti Hendrato-Darmosugito. 35-46.
- Primbon sebagai Sumber Pengetahuan Sistem Pengobatan Tradisional Jawa/ Bani Sudardi. 47-64.
- Pelaksanaan Undang-undang Kerajaan Melayu dalam Sastra Sejarah (Aspek Adat dalam Naskah *Sejarah Melayu*)/ Fadilla. 65-80.
- Just a Chat: Malay Conversations by Haji Ibrahim/ Jan van der Putten. 81-108.
- Ajaran Tasawuf dalam Membentuk Akhlak dan Keperibadian Umat Berdasarkan *Cerita Syekh Baginda Mardam* / Kun Zachrun Istanti. 109-121.
- Undang-undang Kerajaan Buton (Analisis Isi Naskah) / La Niampe. 122-143.
- Serat Purwakandha*: Sebuah Teks Babad dari Kraton Yogyakarta / Manu Jayaatmaja. 144-170.
- Doktrin Asy'arisme dalam Durrat Al-Fara'id Bi Syarh Al-'Aqid: Karya Terjemahan Syekh Nuruddin Ar-Raniri (Kajian dari Khazanah Sastra Pesantren)/ Muhammad Abdullah. 171-187.
- Meong Palo Bolonge*: Sebuah Puisi Lirik Sastra Bugis Klasik Episode Galigo, Telaah Struktur dan Simbol Budaya Lama Manusia Bugis/ Muhammad Rapi Tang. 188-213.
- Kitab al-Adwiyah Wa al-Adiyah; Karya Ahmad al-Dairami / Nabilah Lubis. 214-224.
- Melacak Pola Pemikiran Tasawuf di Indonesia dalam Naskah Klasik Nusantara: Studi Kasus Penelitian Naskah Arab *Tanbih al-Masyi al-Mansub ila Thariq al-Qusyasyiyy* Karya Abdurrauf Singkel / Oman Fathurrahman. 223-234.
- Upacara Adat Pengantin Jawa/ Parwatri Wahjono. 235-258.
- Kajian Pendahuluan terhadap Naskah-naskah Pengobatan Tradisional Masyarakat Serawai / Sarwit Sarwono. 259-276.
- Hikayat Pandawa Jaya*: Transformasi dan Analisis Intertekstual / Sudibyo. 277-295.
- Kabanti “Kanturuna Mohelana” sebagai Sumber Sejarah Butun/ Susanto Zuhdi. 296-312.

- Budha Jawa Santaya: Agama Orang Tengger Malang / Sutarto. 313-320.
- A Preliminary Note on the Function of Manuscripts in Pamijahan West Java/ Tommy Christomy. 321-341.
- Fungsi Sosial Naskah dalam Tradisi ‘Tingkeban’ Masyarakat Jawa/ Trisna Kumala Satya Dewi. 342-355.

Tradisi Tulis Nusantara Menjelang Milenium III: Kumpulan Makalah Simposium International Pernaskahan Nusantara III, 12-13 Oktober 1999. Jakarta: MANASSA, 2000

1999 年シンポジウム報告集所収論文

- Kumpulan Kisah Parwa dari Merapi-Merbabu: Perkenalan dengan Naskah Lontar 145 / Kuntara Wiryamartana. 1-7.
- Magic yang Terungkap dalam Khazanah Naskah Sunda: Sebuah Fenomena Pragmatic / Elis Suryani NS. 8-30.
- Babad Besuki* di dalam Naskah *Ithing* dan *Etheng* Beserta Muatan Tiga Bahasa Daerah/ Amir Rochkyatmo. 31-49.
- Transformasi *I La Galigo* ke dalam Dunia Melayu/ Nurhayati Rahman. 50-65.
- Naskah E4Peti91 dan Tradisi *NedoSunting* pada Masyarakat Rejang/Sarwit Sarwono. 66-96.
- Pola Bahasa Kitabi dalam *Serat Mi'raj*/ Sri Ratnawati. 97-117.
- Pendigitasian Memberi Sayap Baru kepada Manuskrip Melayu untuk Memasuki Alaf Baru (Milenium III) / Ding Choo Ming. 118-156.
- Sebuah Kisah Terpendam dalam Kropak 406 / Undang A. Darsa. 157-174.
- Sagara Adri (Samudra- Gunung) Kawasan Suci Keagamaan di Bali/ I Nyoman W. Kusumah. 175-194.
- Formula Sastra Madura dalam Kerapan Sapi: Sebuah Ancangan Metodologis Pengkajian Naskah/ A. Syukur Gazali. 195-222.
- Manfaatnya Pemetaan dalam Menelusuri Kembali Sejarah Aksara Nusantara/Uli Kozok. 223-237.
- Efek Psikoterapeutik Teks Sastra: Keindahan sebagai Pelipur Lara/ Sudiby. 238-266.
- Nasihat Haji Abdul Ganiu kepada Sultan Laode Muhammad Idrus Qaimuddin (Analisis Berdasarkan Naskah Kabanti “Ajonga Inda Malusa”)/ La Niampe. 267-305.

Penelitian Naskah Nusantara dari Sudut Pandangan Kebudayaan Nusantara: Kumpulan Makalah Simposium International Masyarakat Pernaskahan Nusantara (MANASSA) V. Masyarakat Pernaskahan Sumatera Barat, Padang 28-31 Juli 2001. Padang: Manassa, 2001

2001 年シンポジウム報告集所収論文

- Pak Belalang: Kisah Tukang Ramal dalam Naskah Sastra Melayu (Penafsiran Baru dari Sudut Pandang Ajaran Islam) / Edwar Jamaris. 1-18.
- Masyarakat Aceh dan Naskah-naskah (Persepsi Masyarakat Aceh pada Naskah Tasawuf Aceh tentang Ruh Jihad Melawan Belanda Akhir Abad ke-19 dan Awal Abad ke-20) / Fakhriati. 11-18.
- Anggun Nan Tungga Magek Jabang*: Transformasi dan Produksi Sosial Tek Minangkabau Klasik / Hasanuddin WS. 19-36.
- Boengong-boengong Kulimah: Tasawuf Islam Masa Kerajaan Aceh Darussalam / Herwandi. 37-54.
- Mengkaji Naskah, Melihat Keekerabatan Antarbudaya/ Imam Budi Utomo. 55-62.
- Pendekatan Hermeneutik Bagi Kajian Naskah Nusantara/Irmayanti M. Budianto. 63-80.
- Realitas ketuhanan dalam Wawacan Jaka Ula Jaka Uli: Pemahaman dengan Pembandingan Wawacan Buwana Wisesa dan Wawacan Pulan-Palin/ Kalsum. 81-100.
- Kronik Hulu Dan Kronik Hilir: Dua Naskah tentang Asal-Usul Raja Barus / Mhd. Nur. 101-114.
- Manfaat Sigir bagi Masyarakat Santri: Kajian Sosiologis *Sigir Paras Nabi* dan *Sigir Tajwid*/ Moh. Muzakka. 115-124.
- Segmentasi Gender dalam Fiqih Islam Tradisional : Kajian atas Naskah *Uqud Al-Lujjani Fi Huquq Az-Zaujaini*, Karya Muhammad bin Umar An-Nawar/ Muhammad Abdullah. 125-136.
- Naskah Ulu sebagai Sarana Komunikasi bagi Masyarakat Pendukungnya/ Ninuk Juli Astuti. 137-144.
- Perlukan Generasi Sekarang Mengenal Manuskrip: Sebuah Tinjauan Pembelajaran Filologi di Perguruan Tinggi / Nurizzati. 145-152.
- Naskah dan Rekonstruksi Islam Lokal: Telaah atas Kitab Ithal –Zuki bi Sharh al-Tuhfah al-Mursalah Ila Ruh al-Nabi, Karya Ibrahim al-Khurani/Oman Fathurahman.
- Sikils Wir Hamzah* dalam Khazanah Naskah Sunda/ Ruhaliah. 177-192.
- Yang Pergi dengan Dendam dan Kembali dengan Cerita: Sekilas tentang Latar Belakang Sejarah dan Isi Syair Makkah dan Madinah / Suryadi. 193-242.
- Naskah Angling Darma Ambya Madura/ H.A. Syukur Ghazali 243-272.
- Naskah Undang-undang Bengkulu: Wujud Kesempatan Antar Penguasa Daerah Setempat dengan Pemerintah Kolonialisme/ Yayah Chanifah. 273-288.
- Yang Menarik dari Tambo Minangkabau / Yuliana Agussalim. 289-304.
- Hikayat Raja Pasai: Antara Ingatan dan Kelupaan/ Zuriati 305-322.

Naskah Sebagai Sumber Kebudayaan Nusantara Symposium International Pernaskahan Nusantara VI, 12-14 Agustus 2002. Bandung, : Manassa Cabang Bandung (Jawa Barat), 2002.

2002 年シンポジウム報告書所収論文

- Penggunaan Cap Dalam Warkah-warkah Melayu Lama: Suatu Jati Diri Dan Budaya Bangsa/ Abd. Razak bin Abd. Karim. 1-10.
- Karya Sastra Undang-undang Dari Kerajaan Wolio/ Achdiati Ikram. 11-22.
- Naskah Pangeran Wangsakerta Sebagai Sumber Data Kajian Tentang Masa Silam/ Agus Aris Munandar. 23-42.
- Mencari Jalan Penyelamatan Pernaskahan Nusantara/ Ajip Rosidi. 43-50.
- Bahasa Rupa Dalam Naskah Nusantara/ Annisa Anwar. 51-66.
- Widyaleka, Widyabasa, Dan Widyanama/ Ayatrohaedi. 67-74.
- Rekonstruksi Cerita Wayang Melalui Naskah: Kasus Cerita Wayang Melayu Betawi/ Bani Sudardi. 75-86.
- Mengungkap Silsilah Sunan Gunung Jati Dalam Naskah-naskah Tradisi Cirebon/ Dadan Wildan. 87-114.
- Perbandingan Naskah Daramatasia Menurut Versi Bugis Dan Melayu/ Dafirah. 115-144.
- Penulisan Kembali Naskah Lama Menjadi Versi Bacaan Anak-anak: Sebuah Upaya Apresiasi Naskah Secara Dini Badi Anak-anak/ Dhanu Priyo Prabowo. 145-160.
- Jaran Guyang, Kuda Nismara dan Kebo Tumanggal bertamasya ke sorga dan neraka: Catatan pada lontar Kitab Maludun dari Lombok/ Dick van der Meij. 161-168.
- Raja Haji Ahmad bin Raja Hassan dan karyanya Perkahwinan Raja Muhammad Yusuf dengan Raja Zaleha/ Ding Choo Ming, Ph D. 169-224.
- Syair Baba Kongsit: Suatu syair bersifat kewartawanan tentang kasus penyelundupan seorang Tionghoa pada tahun 1842 / E.P. Weiringa. 225-240.
- Kontribusi Filologi, Sejarah, Dan Arkeologi Bagi Perkembangan Kebudayaan Indonesia/ Hasan Muarif Ambary. 241-252.
- Syair Dalam Kesusastraan Indonesia Klasik Pengaruh Peralihan Hindu Ke Islam: Studi Kasus pada Sastra Melayu Klasik Syair Silindung Delima/ Hasanuddin WS. 253-260.
- Naskah Galunggung - Amanat Prabuguru Darmasiksa [Upaya Memanfaatkan Nilai Budaya Lokal yang Terkandung dalam Kropak 632 4 sebagai Kontribusi bagi Kesejahteraan Bangsa] /Hidayat Suryalaga. 261-276.
- Masalah Transkripsi Dalam Penerbitan Kakawin Khusus Agar Dapat Ditebitkan/ I Ketut Jinarya. 277-288.
- Keanekaragaman Penulisan Karya Sastra Tradisi Karangasem, Bali: Kajian Terhadap Tiga Karya Sastra/ I Made Suastika. 289-302.
- Kidung Nabhi Dalam Khazanah Naskah Bali Klasik/ I Nyoman Weda Kusuma. 303-312.
- Referensi-referensi Tekstual Orang Bali Terhadap Naskah-naskah Lontar/ I Wayan Artika. 313-330.
- Geguritan Siti Badariah Suatu Model Akulturasi Dalam Naskah Bali /I Wayan Cika. 331-346.
- Naskah Usada Sebagai Dasar Pengobatan Tradisional Bali Dan Problematika Pemurnian Teks / I

- Wayan Suardiana. 347-358.
- Khazanah Naskah Melayu di ST. Petersburg, Rusia” /Irina R.Katkova (St.Petersburg). 359-362.
 - The Malay Theatre as an Aid in Reading Romantic Syair/ Julian Millie. 363-380.
 - Hubungan Kekerabatan Lota Ende Flores Dan Aksara Bugis/ Maria Matildis Banda. 381-396.
 - Sila-sila Keturunan Raja Jambi: Interpretasi Psikologikal dan Teknikal/Maizar Karim. 397-414.
 - Mengurai Simbul Perlawanan Budaya: Konflik Priyai — Santri Dalam Serat Darmogandhul Dan Gatloco / Moh. Ali. 415-436.
 - Ma Lima Perilaku Pantangan Masyarakat Jawa: Kajian Tekstologis Naskah Serat Ma Lima /Moh. Muzakka. 437-444.
 - Rejung: Sarana Komunikasi Pemuda dan Gadis dalam Konteks Mencari Pasangan pada Masyarakat Serawai/ Nunuk Juliastuti. 445-450.
 - Pelestarian Naskah-naskah Lontarak Sulawesi Selatan/ Nurhayati Rahman. 451-456.
 - Sinkretisme Budaya Lama dan Budaya Modern Penting Untuk Pembangunan Kebudayaan / Rapi Tang. 457-468.
 - Satu Kura Atau Dua Kura-Kura?: Fabel ‘Angsa dan Kura-Kura’ bagian kitab Tantri Jawa Kuna dalam perbandingan (14-7-2002)/ Revo Arka Giri Soekatno. 469-482.
 - Kisah Klasik Yang Tersimpan Dalam Naskah-naskah Tionghoa-Makasar/ Shaifuddin Bahrum. 483-494.
 - Teknik Olah Digital Untuk Pendokumentasian Naskah-naskah Kuna/ Tedi Permadi. 495-504.
 - Melacak Alur Keberadaan Naskah Fath Ar-Rahman (Pengenalan Awal untuk Melacak Informasi dan Refrensi)/ Titi Farhanah. 505-510.
 - Kajian Naskah-naskah Kuno Bagi Kajian Sejarah Pendekatan Mazhab Annales/ Uka Tjandrasasmita. 511-524.
- Naskah Sebagai Sumber Informasi dan Pengetahuan/ Umar Junus. 525-538.
- Khazanah Islam Indonesia di Saint Petersburg/ Wan Jamaluddin, M.Ag.. 539-554.
- Semendo Terambil Anak: Pemarjinalan “Terselubung” Kedudukan Laki-laki Dalam Perkawinan (Suatu Penafsiran Atas Naskah Undang-Undang Bengkulu)/ Yayah Chanafiah. 555-564.
- Keturunan Bangsawan Melayu dan Majapahit di Negeri Buton (Sebuah Analisis Terhadap Teks Hikayat Negeri Buton)/ Zalili Sailan. 565-576.
- Hikayat Bayan Budiman: Yang Melipur dan Berfaedah/ Zuriati. 577-586.
- Dari ‘Surat’ Ke Naskah Lama Brunei/ Awang bin Ahmad. 587-594.
- Palembang: Kota Dagang Yang Bersurat/ Jan van der Putten. 595-612.

VI. シンポジウム記録

東南アジア史学会・自由企画シンポジウム

ジャウイ文書研究の可能性 一壁としてのジャウイ、橋としてのジャウイー

2002年12月1日、岡山大学において、東南アジア史学会第68回研究大会の自由企画シンポジウム

ムとして、「ジャウィ文書研究の可能性：壁としてのジャウィ、橋としてのジャウィ」が行われた。2001年から活動を開始したジャウィ文書研究会にとってはこれまでの成果をまとめた中間報告ともいえるシンポジウムであった。会場となった部屋は追加の椅子を必要とするほどの盛況ぶりであった。また、報告だけでなく、これまでのニューズレターの充実ぶりにも好評を受けた。

シンポジウムでは、川島緑の「見えない仕切りを開けて：ジャウィ文書研究の意義と課題」を皮切りに、西尾寛治「マレー語圏におけるジャウィの概念」、国谷徹「植民地支配下のジャウィ研究：蘭領東インドおよび英領マラヤを事例として」、服部美奈「西スマトラのジャウィ文書：20世紀前半のイスラーム関連出版物から」、菅原由美「ジャワ社会におけるペゴン使用の意味」、山本博之「ジャウィ誌『カラム』から見た1950年代のマレー・イスラーム圏」の計6本の報告が行われた。これらの報告は、いずれも各報告者が自らの専門に即して行ったものだが、期せずして、ジャウィ文書の社会における位置づけやジャウィのある社会の特質、ジャウィがあったことの意味などが、時代ごとに描かれ、全体としてよく構成されていた。

以下に、各報告の内容を順に紹介しながら、そこに示されたジャウィ文書研究の意義と可能性を見ていきたい。

まず、川島緑が趣旨説明をかね、ジャウィをめぐる研究状況について簡単な説明を行った。これまでジャウィ文書はもっぱらマレー王朝やマレー文学を扱う前近代史研究の資料として利用されてきた。しかし、ジャウィは、マレー語、さらにそのほかの現地語の表記方法の一つとして現在にいたるまで東南アジア海域世界の人々に使われてきたもので、前近代の他の分野や、近現代史研究においても重要な資料である。ジャウィがなぜ関心を向けられなかったのかという問題は、ジャウィがアラビア文字であることからジャウィ文書がともすれば宗教と密接な関係にあると見なされてきたことと関連性があるという指摘は、普遍原理の探求や近代化の過程に研究者の関心が集中し、宗教に関する議論、特にイスラーム教に関する議論への関心が低い近現代史研究の問題点をも指摘したものといえるだろう。また、ジャウィをアラビア文字という外来の文字を用いた表記方法として理解するのではなく、東南アジア海域世界に固有の表記方法であるとする考え方は、外来の文物・思想の移入を、起源からではなく実際の用いられ方から理解しようとする考え方に通じるものである。

西尾は、ジャウィを通じて書き言葉としてのマレー語が確立されたことがマレー世界の形成と発展を促した側面を指摘した。アラビア文字を応用して作られたジャウィは、母音をほとんど表記せずに子音によって表記する。このため、話し言葉では母音の違いとして現われるマレー語の方言差が、ジャウィ表記のマレー語では表面化しない。これは、話し言葉のマレー語を共有しない人々のあいだでマレー語を共有することが可能であることを意味する。ジャウィのこのような特質は、ジャウィ文書研究会の各参加者によって収集されたジャウィ表記の事例をもとに奥島美夏氏がまとめたシンポジウム参考資料「東南アジア諸言語のジャウィ表記の比較」からも見て取ることができる。また、西尾は、東南アジアにジャウィをもたらした人々としてアラブ・中東地域やインド出身のムスリム商人や宗教学者の存在に注目した。アラビア語とマレー語の双方を駆使するこうした人々の存在が、インドやアラブ・中東地域とマレー世界を媒介すると同時に、マレー世界の人々を互いに結びつける役割も果たした。

一口にマレー世界と言っても、その内実は多様な地域から構成される。マレー語を通して外部の世界と関係を結びつつ、地域社会の中では別の言語が用いられている場合も多い。そうした社会では、

言語や文字が多重的に存在することになる。菅原は、19世紀のジャワを例にとり、複数の文字や言語がある種の序列をもって並存している状況を明らかにした。ジャワでは、アラビア語、マレー語、ジャワ語という3つの言語と、アラビア文字、ジャワ文字という2つの文字が状況に応じて使い分けられていた。菅原は、こうした言語状況の中で起こった2つの動きに注目した。第一は、アラビア語の宗教書をアラビア文字のジャワ語に翻訳する一部のプサントレンの動きである。第二は、ジャワ文字表記のジャワ語で記録された宮廷文学を、アラビア文字表記のジャワ語に翻訳する宮廷詩人の動きである。アラビア文字表記のアラビア語文書、ジャワ文字表記のジャワ語文書は、それぞれイスラム教とジャワの宮廷という権威を担った文書である。菅原は、19世紀になってこうした文書の書き換えが進んだことについて、ジャワ社会のイスラム化の進展に対応して行われたものと解釈した。

こうした多重言語・多重文字状況は、20世紀に入っていっそう複雑なものになった。植民地統治にともなって新たにローマ字表記が導入されたためである。これと関連して服部は、20世紀初めに見られた2つの動きを西スマトラの事例から明らかにした。第一は、イスラム教による近代化運動である。西スマトラでは、中東のイスラム改革思想の影響を受け、20世紀初頭からイスラム教育の近代化がはかられた。教育の対象を拡大し、アラビア語でなくジャウィによる定期行物が発行されるようになった。これにはイスラム教に対する理解をより広範な人々に広めるといった側面があった。第二は、植民地政府による公教育の開始である。植民地政府はマレー語をローマ字表記し、辞書を編纂して言語の標準化を行った。ローマ字表記のマレー語が官製の教育機関で教えられ、公文書にも用いられるようになったことにより、ローマ字表記のマレー語を読み書きできる人々はしだいに増えていった。マレー語がローマ字表記されることで、ジャウィ表記ではあいまいにされていた方言差が明確になり、ミナンカバウ語のように、その一部はマレー語と異なる地方語として見なされる結果となった。また、ローマ字表記のマレー語の普及により、オランダ領東インドではイスラム定期行物もローマ字で発行されるようになった。

では、なぜ植民地政府はジャウィを公文書や公教育の言語として採用しなかったのか。國谷は、植民地政府がジャウィを近代教育にふさわしくないと認識していた可能性を指摘した。第一は、ジャウィはマレー文学やその他の伝統文学を記述するものであるという考え、第二は、ジャウィが植民地統治にとって脅威となるイスラム教について記述するものだという考えである。國谷は、ジャウィに対するこのような見方が植民地主義者だけでなく研究者にも影響を与えてきたのではないかと結んだ。

ジャウィ文書の社会における位置づけやその変遷について扱ったこうした報告のほかにも、ジャウィ文書の内容の分析を行ったのが山本の報告である。ここでは、ジャウィ文書が宗教や伝統文学に限定されない主題を扱っていることが明らかにされた。1950年代にシンガポールで発行されたジャウィ誌『カラム』を分析した山本は、シンガポールのムスリムがインドネシアの情勢を見ながらシンガポールやマラヤにおける自らのあり方を模索する場として『カラム』があったことを明らかにした。また、ローマ字表記が普及した現代においてもジャウィというメディアは非ムスリムの介入しない議論の場をムスリムが確保するという機能を持ちうることを指摘した。

会場からは、ジャウィという言葉の起源をめぐる質問から、植民地官僚のオリエンタリストとしてのあり方に関連した質問まで、幅広い質問が行われた。必ずしもすべての質問に質問者が納得のいく回答をできなかったものもあったが、会場で十分な回答をすることができなかった質問もあったが、ジャウィ文書研究の意義と可能性を、ジャウィ文書について知識や関心を共有していない人々に伝え

るという目的は、ある程度、達成されたのではないかと思われる。〈西 芳実〉

VII. 研究会記録

第17回研究会

日時：2003年4月19日（土）13:00-18:00

場所：上智大学四谷キャンパス 10号館 324号室

出席者：12名

1. ジャウイ文書購読

Kang Kyong Soek, Perkembangan Tulisan Jawi dalam Masyarakat Melayu. pp. 1-4, line

4. テキスト提供者：西尾寛治、レジメ担当者：西芳実。博士論文を基にした本ということで全体としては比較的読みやすいテキストだったと思うが、いくつか読解が難しい部分もあった。diubahsuaikan は使いなれない単語ということもあり難しかったが、もっと予想外だったのは、ありふれた単語 warisan が、wrthn (>warithan>warisan) とジャウイ表記されており、まったく読みとれなかったことだ。アラビア語起源ということで変則的であるらしい。

2. 資料情報交換

菅原由美氏からインドネシア写本学会（Masyarakat Pernaskahan Nusantara : MANASSA）のシンポジウム参加の話を中心に報告があった。写本目録の作成はジャワの分は進んだが、ジャワ以外の地方語はまだ遅れている。南スラウェシでは計画があるがまだ完了していない。パレンバン、パダンも訪問したが、資料はあるが財源の確保に苦労しているようである。詳しくは本誌の報告を参照。

3. 今後の研究活動・事務局体制について

(1) 『上智アジア学』20号ジャウイ特集は、ページ数をかなり超過したが、5月末までに配布可能であると川島緑氏から報告があった。

(2) 資料購入。トヨタ財団の助成は2003年4月に終了予定となっていたが、残務整理のため2か月の延長が認められた（6月末で助成終了）。残余金を使って資料（主としてカタログ）を購入する予定であると川島緑氏から報告があった。

(3) 事務局は5月1日から2年間をめぐりに青山亨研究室（鹿児島大学多島圏研究センター）に移転することが確認された。これにともなって立ち上がったメーリングリストとウェブサイトについて青山から説明があった（詳細はニューズレター9号）。ウェブサイトの内容について議論があり、ニューズレター（既刊を含む）の目次をすべてのせること、執筆者の許可がとれた分については本文ものせることが決まった。今後は、ニューズレター原稿依頼時に、ウェブへの掲載について「無条件掲載可」「掲載可、引用不可」「掲載不可」のいずれかの選択をしてもらうことに決まった。また、1-8回までの研究会の記録は東京大学のウェブサイトにあるので、ジャウイ文書研究会のウェブサイトに移せるよう許可をもらうことになった。

メーリングリストについても議論があり、当初はメーリングリストへの参加は一般に公開する方針であったが、最終的に、ジャウイ文書研究会のメンバーのみがメーリングリストに参加できることに決まった（この点、ニューズレター9号の内容を訂正する必要あり）。また、メーリングリストの利用にあたって、管理者にメンバー退会の権限を与えるなどの内規を作る必要性が指摘された。

(4) 引き続きニューズレターについての議論があった。今後は年に3-4回の頻度で発行すること、経

費の節減のため、PDFによる電子版を基本とすることが決まった。ニューズレター自体は研究会の内部資料であることが確認された。したがって、電子版を配布するためのメーリングリストも研究会メンバーに限定する必要がある（上記の決定）。

次号の内容としては、菅原由美氏によるインドネシア調査報告、西芳実氏による 2002 年 12 月 東南アジア史学会岡山大会での発表の報告を掲載することが決まった。

(5) 最後に、今後の研究活動についての議論があった。2003年度は財源がないため旅費をとまなう研究会をこれまでのような頻度をおこなうことはできない。そこで、ジャウィ文書の購読会を年に2回程度開催することを基本的な活動とすることにし、購読会の開催は東南アジア史学会研究大会のような全国大会へ参加する機会の前後の日を利用することを決めた。購読文書の候補として、Patani Ulama, Utusan Melayu紙, Kang著Perkembangan Tulisan Jawi, JSBRAS (1886) No.18掲載の1887年ヴィクトリア女王戴冠記念式にペナンから送られた祝辞の4点があがり、投票の結果、最後のテキストを読むことになった。次回の研究会は6月2日（月）午前9-12時に東京外国語大学にて開くことが決まった。

(6) 来年度の財源を確保するため、黒田景子氏んが中心となって科研（海外学術）などの助成に応募することを決めた。

（文責：青山 亨）

このニューズレターはジャウィ文書研究会の記録、および、ジャウィ文書研究会に役立つ情報提供を目的としており、研究会のメンバーには PDF 版で配布するとともに、研究会出席者に会場で配布しています。研究会に出席できない方でこのニューズレターの入手を希望される方は、希望する号を明記し、事務局までメールアドレスをお知らせいただくか（PDF 版希望の場合）、あて先を記入して 240 円切手を貼った A4 サイズ返信用封筒を同封の上、事務局までお申し込みください（郵送希望の場合）。なお、研究工具や資料、文献の紹介、研究報などの投稿を歓迎しますので、希望される方は事務局までご連絡ください。